



ANH CÒ THAM GIA KHONG? (参加しませんか?)

南遊の会は地域の交流イベントに積極的に参加しています。
ベトナムコーヒーを飲みたい方や南遊の会に興味のある方など遊びに来ませんか?
きっと楽しい1日になるはずです。

○ワールドコラボフェスタ

日時 10月30日(土)～31日(日)
場所 名古屋市栄公園 オアシス21周辺 (地下鉄栄駅下車)
内容 南遊の会の活動紹介、ベトナムコーヒー販売
詳細 <http://www.world-collabo-festa.jp/>



三好国際交流フェスタ(2004.9.19)

30日はオアシス21のワールドステージにて「ピーストークマラソン」で南遊の会を紹介。

31日は久屋大通り公園の「ワールドカフェ」にてベトナムカフェを出店します。パインセオ(ベトナム風お好み焼き)も食べられるかも。

○ボランティア文化フェスティバル2004

日時 11月21日(日) 12:00～17:00
場所 名古屋市昭和区区役所講堂 (地下鉄御器所駅下車)
内容 南遊の会の活動紹介
連絡先 ボランティア文化フェスティバル2004なごや実行委員会事務局
0561-62-0782



デンソーハートフルクラブ総会に参加(2004.7.10)

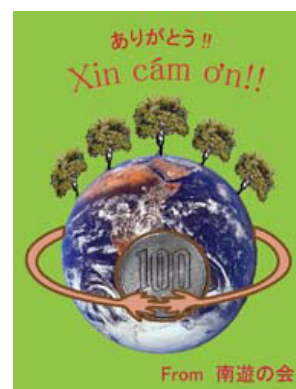
現在、福祉・医療・環境など様々な分野でボランティア団体が活躍しており、今後もボランティアは社会において重要な存在になるでしょう。この企画は若い世代のボランティアが交流し知り合うきっかけを設け、ボランティアの輪を生み出すことを目的としています。展示ブースや体験発表コンテストなどがありますので、ボランティアに興味のある方は是非、足を運んでみてください。



お知らせ

○お願い～マングローブパスポートについて

毎年の植樹目標は5haですが、1haにつき1000\$の費用は、現在の「南遊の会」にとってかなりの負担になります。そこで会内外の方々に募金運動を呼びかけ、ご協力頂いた方に「マングローブパスポート」をお渡ししています。金額は1口100円、何口でも結構です。そして「日越青少年交流の森」完成の暁に、ご協力頂いた方々のお名前を刻んだ記念碑を立てる計画です。



From 南遊の会
マングローブパスポート

★次号はスタディツアーの案内を詳しくお伝えします。お楽しみに。

編集者:大西哲雄、杉田朝子

「南遊の会」事務局

大西 哲雄
〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄1-23-13
なごやボランティアNPOセンター気付
Eメール: info@namudu.jp
ホームページ: <http://namudu.jp>



2004年「南遊の会」総会・学習会 2004年5月29日

Xin Ciao(こんにちは)!「南遊の会」は、発足以来3年目を迎えました。今年度からは、JICAからの草の根資金援助も受けられることになり、マングローブ植樹の計画もピッチがあがっていくことでしょう。このような活動の発展には、石丸代表の果たした役割が大変大きいものがありました。体調の関係から、今回、代表を藤本副代表に交代することになりました。一日も早い回復を願っております。



代表就任のご挨拶

藤本 潔 2004年7月18日

南遊の会の皆様、こんにちは。この度、石丸さんの後任として代表に就任いたしました藤本と申します。現在、瀬戸市の海上の森に隣接する南山大学総合政策学部で「地球環境論」や「エコシステム論」などを講義する傍ら、主に東南アジアやミクロネシアでマングローブ生態系の研究を行っています。私と南遊の会の出会いは全く偶然のことでした。確か2001年の春頃だったと思いますが、私のゼミ生が、「NGOの集まる会合に参加したら、マングローブ植林のNGOの人と知り合いになったので先生を紹介してきましたよ。」と言ってました。その数日後に早速戸嶋さんから連絡があり、お会いしたのが始まりでした。その後、石丸さんと桜井さんもお見えになり、ベトナムのカンザーでマングローブ植林を計画していることを伺い、「これはいずれ深く関わることになるな」と直感したのを覚えています。というのも、実は1996年以来、ベトナムでもマングローブ研究に携わっており、カンザーはその主要な研究対象地域の一つだったからです。当初はアドバイザーとして会を支援してほしいと言うことでしたので、相談に応じて専門家としての立場からアドバイスをしたり、助成金申請時に推薦書を書く程度のお付き合いでしたが、昨年の3月頃に正会員になって理事に就任してほしいという依頼を受け、お引き受けしたという経緯があります。その後昨年5月の総会以降は、副代表という立場で会の運営に微力ながら関わって参りました。



丹羽副代表、ホンバン大学学長と固い握手の藤本代表

今さら言うまでもなく、南遊の会の目的は「マングローブ植林を通じて環境保全に貢献すると共に、日越両国の若者がその作業を共同して行うことにより、環境教育や異文化理解にも貢献すること」にあります。50haの「日越青少年交流の森」造り事業は今年で3年目に入ります。当初計画では、資金調達の関係から、毎年5haずつ、10年間かけて完成させる予定でした。しかし、幸いにもJICAの「草の根技術協力事業」への申請が採択され、今年8月には正式契約が結ばれる運びとなり、今後3年間で当初目標である50haの植林事業を完成させる見通しが立ちました。ここまで漕ぎ付くことができましたのも、前代表の石丸さんの献身的な努力と会員の皆様のご理解・ご協力があったからに他なりません。森造りとは植えて終わりではありません。植林という行為自体は森造りの第一歩に過ぎません。今後私たちには、この植林事業を完成させると共に、その成長を末永く見守っていく義務があります。私と致しましては、志半ばにしてご健康上の理由からやむを得ずこの事業の第一線から身を引かざるを得なくなった石丸さんのご意志を引き継ぎ、「日越青少年交流の森」造りと南遊の会の発展に、微力ながら、誠心誠意取り組んでいく所存です。皆様方には今後とも変わらぬご支援・ご協力を賜ることができましたら幸いです。石丸さんのご健康の回復と現場への1日も早い復帰を祈念致しまして、代表就任の挨拶とさせていただきます。



2003年度事業報告と2004年度事業計画

2004年5月29日に第二回「南遊の会」総会が開かれました。ここで、2003年度の活動実績と2004年度の事業計画をお伝えします。

○2003年度事業報告

1. 現地事業活動(ホーチミン市駐在員)

- ①ホーチミン市農業・農村発展局・カンザー県人民委員会等との信頼関係の維持推進
- ②「日越青少年交流の森」造りの植樹苗の調査研究
- ③自然環境保全に対する理解を深めるための学術的方向性を探る
- ④長期モニタリングプロットの設置

2. 植林事業(スタディーツアー)

目的:現地での体験学習から日越の交流を深め、青少年の育成を図る。
 内容:日越学生及び森林組合と協働で「日越青少年交流の森」づくりを行う。
 地の研究者と意見交換し環境教育、意識の向上をはかる。

時期:2003年8月16日～8月24日

参加人数:学生・一般 16名

3. 事業拡大への活動

- ①会員の増員拡大・独自活動の強化
- ②定例会議活動の推進 1回/月
- ③JICA草の根技術協力への助成申請活動
- ④交流祭・学園祭への参加及び学術研究活動の推進
- ⑤広報活動 (週間南遊新聞、HP、広報ビデオ、会誌、感想文集)

○2004年度事業計画

1. 植林活動(スタディーツアー)

目的:植樹体験を通して環境、生態系の学習と協働作業を通じて、異質を学び両国青少年へ相互理解を深める場を提供する。
 内容:日越の学生、森林組合と協働で植林事業を行う。現地の研究者と意見交換し環境教育、意識の向上を図る。

時期:2004年8月17日～26日

参加人員:日本人学生・一般 20～30名
ベトナム人学生20～30名

2. 学術・研究活動

- ①長期モニタリングプロットの設置

3. 事業推進活動

- ①会員の増員拡大
- ②マングローブパスポートなどの寄付金募集
- ③月に1回以上の定例会議の開催
- ④JICA草の根技術協力への助成申請活動
- ⑤交流祭・学園祭への参加
- ⑥広報活動 (南遊新聞、HP、広報ビデオ、会誌、感想文集)

4. 現地活動(ホーチミン市駐在)

- ①ホーチミン市農業・農村発展局・カンザー県人民委員会・ホンバン大学等との信頼関係の維持推進
- ②「日越青少年交流の森」育成状況調査・報告
- ③ツアー条件調査



スタディーツアー2004 南遊の会

2003年度会計収支報告

収入	4,167,354
会費	526,200
寄付金	462,963
体験交流事業収入	3,029,000
その他	149,191
支出	4,458,769
体験交流事業関係費	4,108,679
経常活動費	350,090
当期支出差額	¥-291,415

「南遊の会」会員数 (2004年3月31日現在)

正会員	20人
賛助会員	16人
支持会員	39人
会友	14人
その他	14人
合計	103人

会員の皆様、ご協力ありがとうございます。
 「南遊の会」は現在も会員を広く募集しています。今後も積極的なご参加をよろしくお願ひします。



ご連絡

JICAとのマングローブ植樹業務委託契約締結!

JICA(独立行政法人・国際協力機構)と草の根技術協力事業について8月1日に業務委託契約が締結されました。正式には、案件名「ベトナム国ホーチミン市カンザー天然マングローブ林保全・環境人材育成プロジェクト」の「草の根技術協力事業(草の根協力支援型)業務委託契約」です。この事業は、3年間にホーチミン市カンザーにマングローブを50ha植林するというもので、JICAから総額1000万円ほどの財政的援助をいただくことになっています。今回のスタディーツアーで約3haの植樹を行いました。本年度計画分の残りは、現地の森林組合を中心にして、カンザー住民の方々の手で、本年度中に行われる予定です。

また、植林事業だけでなく、環境保全の大切さを理解した人材育成の事業も大きな柱の一つです。具体的には、スタディーツアーでの討論会や学習会の計画、ベトナムのマングローブについての優れた研究者であるナムさんの本のベトナム語での出版、普及などを考えております。

今回の契約締結は、JICAをはじめ多くの方々のご努力の賜物であり、関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

南遊の会では、その責任の重さを痛感するとともに、計画が無事達成できるよう全力を挙げていきたいと思っております。



モニタリングプロットの毎木調査



XIN GIOI THIOU! (紹介します)

今回は、ベトナムの民族衣装、アオザイを紹介します。ベトナムの町を歩いていると白いアオザイを着た女学生やアオザイをなびかせながらバイクを運転する女性が目に付きます。とても綺麗で清楚な雰囲気の漂うアオザイはベトナムを旅する外国人女性の間でも人気が高まっています。

アオザイはチャイニーズフレンチスタイル

ベトナムは紀元前100年頃から1000年近く中国に支配され、その後は、元やフランスなどの侵略を受けてきました。そのため、ベトナムの食文化や言語などに様々な国の特徴が残っています。アオザイもその影響を受けたものの一つと言えるでしょう。アオザイは一見するとチャイナドレスのように見えますが、チャイナドレスよりもスリットが腰まであり、下にパンツをはくのが大きな特徴です。この長いスリットは、南方の湿った気候に適して発展したと言われていますが、騎馬民族(元)の名残りであると言う説もあり、はっきりした事はわかりません。また、フランスに占領される前のアオザイは今のようにピッタリと上半身をフィットさせた物では無く、ゆったりとしたコートのような感じの物でした。しかし、フランスの植民地時代が到来すると西洋の洋服文化が流入し、現在のアオザイが生まれたそうです。今ではベトナムの学生服として、パーティや結婚式などの正装としてベトナムの文化に溶け込んでいます。



アオザイの似合う日越の学生たち



アオザイで颯爽といくベトナム女子高校生

アオザイのオーダーメイド

アオザイの魅力が世界に広まりアオザイをオーダーメイドする観光客が増えています。日本でもアオザイのオーダーメイドツアーがあるほどです。

オーダーメイドはまず、生地選びからスタート。素材はポリエステルやシルクなどがあり、色や柄など下にはくパンツとセットで選びます。一般的にパンツは若い女性は白が多く、年配の女性は上着と同色にするのが定番だそう。上着の柄は、刺繍のものやペインティングされたものなどがあります。

次に10～20数カ所の採寸を行います。ピッタリと自分の体にフィットするアオザイにはこの採寸が命。お店の方がしっかりと測っていきます。

完成は翌日～1週間程度で料金は3000円ぐらいから。ベトナムに行く機会があったら自分だけのアオザイをオーダーしてみたいはかが?